

教育研究業績書

2017年05月29日

所属：情報メディア学科

資格：教授

氏名：丹田 佳子

研究分野	研究内容のキーワード
ファッション・マーケティング	ファッション・イメージ・ビジュアル・デジタル
学位	最終学歴
博士（家政学）	武庫川女子大学 家政学部 被服学科 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. ファッションの表現方法：デジタルファッションショー（Project Based Learning）	2009年4月～現在	このプロジェクトは、ファッションは個人の個性を発信する情報ツールであると考えられているが、本当にその役目を果たすことが出来るのかという疑問を出発点にしている。各年度のコンセプトにもとづき、そのイメージを洋服で（デザイン・色・柄）で表現する。表現は、IT技術を駆使した3D映像表現とリアルに表現した実際の洋服の2方法による。両者を同時にショーとして演出することにより、洋服の役目の正否を確認する。このショーは、デジタルファッションショーとして文化祭で開催している。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 自治体の広報情報システムの調査報告 2	共	1999年04月	（財）関西情報センター	大石・東村・丹田・中井 自治体の広報活動に関するアンケート調査（自治体サイド）と大阪市の広報活動に関するアンケート調査（市民サイド）の比較 担当（pp. 76?89）
2 学位論文				
1. 「似合う」評価の視覚判定構造に関する研究	単	1997年12月	武庫川女子大学生活環境学研究室	「似合う」とは、着用者と被服の組み合わせの特徴を表現したもので、概念でアル。概念は、基準が明確なときに形成される。ここでは、「似合う」概念を形成する基準を、着用者と被服を表すn個の次元と意味を表す形容語で構成された「意味空間」で表現した。
3 学術論文				
1. 片麻痺者に配慮した衣服設計指針に関する研究 2	共	2013年5月	芸術工学会誌	片麻痺者を対象とした衣服設計においてを立位・歩行時にできる「しわ」や「ずれ」のない美しい衣服を設計するための要素を抽出することを目的とした。
2. 中国と日本における中高年女子の体型比較に見る体型特性と衣服設計要員の関係性に関する研究	共	2013年3月	芸術工学会誌	中国におけるファッション産業の急成長と高齢化が進む社会に注目し、衣服設計の分野から中国人の特性を活かした衣服設計用とは何かを明らかにした。
3. ファッションとキャラクターの関係性—海外ドラマ「SEX AND CITY」—	共	2012年3月	武庫川女子大学紀要（自然科学）	女性にとって雑誌やショップのウィンドウはファッションのお手本であった。近年、テレビドラマはファッションのバイブルと化している。ここでは、単なるファッションとしてではなく対人関係形成スキルの基礎としてファッションとドラマのキャラクター演出の関係を探り、有用であるかを検証した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. 女子大生のファッションと大学イメージの比較	共	2012年3月	武庫川女子大学紀要(自然科学)	大学イメージの要因の一つに大学に通う女子大生のファッションが影響しており、影響の方向性が大学内では同調志向、大学間では差別化志向に働いていることを明らかにした。
5. 片麻痺者に配慮した衣服設計指針に関する研究1	共	2012年02月	芸術工学会誌	笹崎綾野, 見寺貞子 片麻痺者の体型特性は、衣服設計に関する、着丈、袖丈、ズボン丈などの武に関わる要因、ズボン幅、袖幅など幅に関わる要因、襟ぐりの形、ダーツの長さや分量を決定する項目にあることが明らかになった。
6. 生活の中のコレクション	共	2011年11月	武庫川女子大学生活美学研究所紀要	矢田部愛, 赤岡仁之, 丹田佳子 生活者のコレクション行動の実態の聞き取り、及びアンケート調査をすることによって、そこに見られる人々の生活におけるコレクションの多様性を具体的に示した。
7. 後ろ姿美人とファンデーションの関係	単	2006年11月	生活美学研究所	美しさに貪欲な女性。その多くがダイエットを実践し、体重の変化(軽量)で美しさを計る傾向が強まっている。体重ではなく、体型を把握し美しく見せることが重要である。そのための役割としてファンデーションがあるが正しく着用しなければ美ではなく醜になってしまう。ファンデーションの着用実態と美醜に関して調査した。
8. Relation Between Classification by Midnight Behavior and Classification by ONE=DAY Behavior in Female Students	共	2004年05月	kansei Engineering International	Tomoko Yoshioka, Yasutaka Takada, Ken Kazama
9. インターカラー提案色が流行に及ぼす影響—提案年度からの経年変化—	共	2004年04月	感性工学研究論文集	吉岡朋子, 高田康孝, 小田順子 情報の受発信の効果を知るために、インターカラーで予測された色が、実際に市場でどの程度流行したかを検討した。
10. 自治体の広報情報システムの調査	共	1999年03月	(財)関西情報センター	自治体の広報活動に関するアンケート調査(自治体サイド)と大阪市の広報活動に関するアンケート調査(市民サイド)を比較し、両者の一致点と不一致点から自治体の改善策や啓発活動の方法、今後の情報サービスのあり方をさぐる。担当 (pp.76-89)
11. (学位論文)「似合う」評価の視覚判定構造に関する研究	単	1997年12月		「似合う」とは、着用者と被服の組み合わせの特徴を言語で表現したもので、概念である。概念は基準が明確なときに形成される。ここでは、「似合う」概念を形成する基準を、着用者と被服のイメージを表わすn個の次元と意味の性質を表わす形容語で構成された「意味空間」で表現した。全 (pp.143)
12. 衣服と視覚効果—「似合う」とは	単	1997年03月	繊維機械学会誌 1997年版 50巻 3号	「似合う」という評価は、判定者が属する集団によって決まる。そこで判定者の集団を武庫川女子大学被服学科に在席し、4年間被服に関する専門教育を受け、被服に関する購買行動が近似している人達とした。この集団の「似合う」「似合わない」を判別する基準を求める方法を提案した。全 (pp.6)
13. ブランドが衣服の購買行動に与える諸効果—女子大生とその母親の場合	共	1996年11月	繊維製品消費科学会誌 1996年版 37巻 11号	井手・磯井・風間 衣服購入時にブランドを念頭に置く購買者の属性を明らかにする。女子大生とその母親の基本属性(世帯年収・年齢・職業)との関係は低い。ブランドを念頭に置く購買者は、自己のセンスに自信を持ち、流行に敏感で衣服の値段に詳しい。また、ファッションに関するジャンルの雑誌の購入頻度が高い。全 (pp.7)
14. Effect of Some Factors in Buying the Clothes (Part 4) -Retail Image Held by Consumers-	共	1994年12月	繊維製品消費科学35巻12号673頁	衣料品の購入時に消費者が抱く業態イメージを明らかにする。第1因子はマーチャライジング・イメージ、第2因子は購買行動の計画性であった。第1因子は百貨店と専門店が高く、量販店が低かった。計画性は量販店における学生と百貨店における母親の指数が高く、量販店における父親の指数が低かった。
15. 衣服購入時に及ぼす諸要因の効果(第3報)—購入実態と連想品目間の関係—	共	1994年11月	繊維製品消費科学35巻11号634頁	調査対象を女子学生とその母親・父親とし、衣服品目の業態別購入実態と品目の購入を連想する業態との関係を明確にする。対象者によって業態への連想に相違があること、業態間の識別意識は父親用が最も大きく、母親用が小さいことがわかった。
16. 生活関連の伝統文化に対する女性の意識—アンケート調査からみた意識に残る状態—	共	1994年10月	繊維製品消費科学35巻10号554頁	伝統文化が生活と意識に残る度合いを女性について調べた。質問項目は37で、4つのグループに分類された。各グループの特徴は、①全回答者が高い肯定率を示した、②年齢の高い人で体験によって得ている知識、③年齢の高い人で体験によらない知識、④全回答者の肯定率が低い、であった。
17. 衣服購入時に及ぼす諸要因の効果(第2報)—業態選択の実態と消費者の意識構造—	共	1994年06月	繊維製品消費科学35巻6号328頁	百貨店や量販店など業態ごとに購入する衣服の枚数に差があったり、ある業態で購入する品目は他の業態では購入しないなど、購入時の衣服品目選択に際

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
18. 衣服購入時に及ぼす諸要因の効果 第1報 衣服の使用目的と使用者の意識構造との関係 Effect of Some Factors on Buying the Clothes. Part 1 : Relationship between Purposes of Using Clothes and its Consciousness Structure.	共	1993年09月	繊維製品消費科学会誌、 ・ ・ ・ ・ ・ 34・ 、485-491・	し、業態を異った意識でとらえることがわかった。 また、目的意識によって6業態のうち半数の業態を区別して選択していることがわかった。 井手、磯井、風間 本報では、諸要因のうち、特に使用目的に注目した。対象は、学生及びその母親、父親の3者である。ここでは、衣服の品目を使用目的により分類し、その分類と3者の生活行動の特徴との関係を明らかにする。方法は、3者に対してそれぞれ5年のデータを用いて、因子分析を行った。その結果、衣服の使用目的が3者で異なっていることがわかった。
19. 衣服の視覚判定における専門家の評価構造 Mechanism for Evaluating Clothes on Visual Judgment by Experts	共	1993年06月	繊維学会誌、 ・ ・ ・ ・ ・ 49・、306-310・	磯井、風間、小田 専門家が衣服の写真を評価する構造につき検討し、以下の結論を得た。判定者の評価がすべての写真で一致する用語と、一致しない用語を分類し、共通要因を見い出した。写真にモデルの顔がある場合は、ない場合より評価の一致が困難となり、この傾向は評価用語に多く見られた。また否定的な評価が多かった。価値判断や流行に関する用語は、写真評価の一致数を左右した。
20. 地域差による衣服の特徴 Characteristics of Clothes and Personal Effects Locality	共	1993年04月	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学）、 ・ ・ ・ ・ ・ 41・、109-113・	磯井、角野 人が住まい集う地域や街は、高級住宅街・下町・若者の街・眠らない街など、様々な印象を持っている。この地域（街）の印象形成に、人が着用している衣服の種類や持ち物の違いが影響していると考えられる。そこで、衣服や持ち物を種類別・地域別に分類し、印象の異なる地域に差があるか検証した。
21. 衣服のイメージ評価におけるばらつき処理方法 Consideration about the Variation of Evaluation on Image of Clothes	共	1993年01月	繊維学会誌、 ・ ・ ・ ・ ・ 49・、539-545・	磯井、風間、小田 3名の専門家が30種類のイメージ用語で、50着の衣服を2回ずつ判定した。判定値は一致したものと、不一致のものに統計的検定により分類された。一致または不一致の比率が高い用語または衣服は、主効果があると判定された。判定の評価基準を求めるために、一致した判定値のみを用いて相関行列を作成し、因子分析を行った結果、評価構造の明確化ができた。
22. 衣服の視覚判定における専門家と素人の比較	共	1993年	繊維学会	磯井、小田、風間 専門家と素人の衣服評価の差（グループ内一致）を価値評価用語・流行度関係用語・客観的判定用語の3つに分類し検定で求めた。2つのグループに共通した評価（グループ間一致）は、相関係数を単回帰の危険率から求め、両者が一致しない評価は用語を異なる意味でとらえていることが分った。
23. 衣服の視覚判定における専門家の評価構造	共	1993年	繊維学会 Vol. 49, No. 6・	磯井、小田、風間 専門家が衣服の写真を評価する構造を、次のように明らかにした。①すべての写真で、一致・不一致の用語を正規分布を応用し分類し、共通の要因を見い出した。②写真にモデルの顔がある場合、一致が困難となる。③否定的評価が多い。④評価判断や、流行に関する用語が一致数を左右する。
24. 「似合う」評価のシステム化	単	1993年	武庫川女子大学紀要40集 人文・社会科学編	（磯井）□「似合う・似合わない」の、衣服と着用者の関係（視覚判定構造）を①度数分布（比率の検定）、②1回数量化法（因子分析、数量化Ⅰ類）、③2回数量化法（因子分析・数量化Ⅰ類）、④単純集計法（平均値）の4手法について検討した。その結果③2回数量化法が総合評価ですぐれていた。（p. 25?32）
25. 衣服のイメージ評価におけるばらつき処理方法	共	1993年	繊維学会誌 Vol. 49, No. 1	磯井、小田、風間 ファッション衣料のイメージ評価は、ファッションの専門家といえども結果がばらつく。ばらつきが存在する以上、ばらつきの中から評価結果を抽出し、判定者の基準を得る方法が必要である。本報では、多くの衣服に共通した一致しやすい用語、多くの用語に一致しやすい衣服、特定の衣服と用語に一致する交互作用を、数量化Ⅲ類を用いて明らかにした。（pp. 53?56）
26. 衣服の外観評価における専門家の共通の観点	共	1992年	ファッション環境学会誌 Vol. 1-2	磯井、小田、風間 専門家が衣服を評価する際の観点を明らかにする。衣服と各イメージ用語の組み合わせによる評価結果が、各判定者で一致したものを正規分布の信頼区間の範囲を応用して求めた。一致したものについて、どのような用語の組み合わせが生じているか、数量化Ⅲ類により求めた。その結果3つの次元（トレンド・感性・成熟）で表わされることを明らかにした。（pp. 12?18）
27. 衣服の「似合う」判定における判定者の判定基準	共	1992年	繊維学会誌 Vol. 48, No. 6	磯井、長澤、風間 これまでの「似合う」視覚判定構造を明らかにする

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
28. 商品の諸特性に関する所得階級別考察	単	1992年	武庫川女子大学紀要39集 人文・社会科学編	研究では、判定値は全判定者の平均値を用いてきた。しかし同じ対象を見ても判定者により評価が異なる。そこで判定者の判定の差の有無を相関係数とF検定で判定し、クラスター分析で判定者をグループ化した。各グループごとに、分散分析を行い、「似合う」評価の基準がグループによって異なることを見出した。(pp. 299?303)
29. 「似合う」要因の研究成果の体系化	単	1991年	武庫川女子大学紀要38集 人文・社会科学編	(磯井) □従来様々な方向から「似合う」について研究してきた。これらの研究を1つにまとめることによって、従来の研究成果の有効な新しい利用法を考える。(pp. 55?62)
30. 衣服の視覚効果の判定に関するデータ処理方法	共	1991年	繊維学会誌 Vol. 47, No. 6	磯井、風間 衣服と着用者の要因が「似合う」判定に与える関係を求める方法として、衣服や着用者を表わすイメージ用語を絞り込んで数を減らすために、因子分析をして共通因子を持つ用語を同一グループとして処理してきた。衣服や着用者を表現する個々の用語の微妙な違いの影響を与えるかもしれない。そこで2回数量化法の精度を吟味する目的で、因子分析や数量化にかけない度数による手法を試みた。その結果、有意な差は得られなかった。(pp. 314?319)
31. 被服における「価格の所得弾力性」の諸特性	共	1991年	日本繊維製品消費科学会誌 Vol. 32, No. 5	磯井、松本、大橋、風間 所得階級別購入価格が、どのような性格を持つかを調べる。価格の所得弾力性 (EP) の単回帰を行い、これを基本推定式とする。危険率10%以下の品目についてと被服消費の関係を、購入価格・購入数量・数量トレンドにより表した。EPは、各品目の商品特徴を表現できることを見出した。(pp. 225?229)
32. 被服消費の所得階級別購入価格による研究	共	1990年	日本繊維製品消費科学会誌 Vol. 31, No. 7	磯井、江藤、大橋、風間 所得と価格の関係式を単回帰から求め被服関係の商品の3年後の価格の予測を行った。この予測式と実測値の一致性は、回帰係数の一致の検定を行った所得から得られた購入価格の推定式を用いれば異なる時点の所得に対応した購入価格を予測できることを知った。(pp. 332?335)
33. 似合う程度に及ぼす表情の影響	共	1990年	繊維学会誌 Vol. 46, No. 7	中川、磯井、風間 衣服の似合い方に及ぼす表情の効果を求めるために、被験者・表情・衣服の3要因を3元配置法で判定者を繰り返し数として分析した。分散分析の結果、似合う程度は、被験者によって定まる割合が高く、表情は交互作用に表われた。(pp. 258?261)
34. 都市生活における暮らしやすさ	共	1990年	日本繊維製品消費科学会誌 Vol. 31, No. 6	磯井、風間 都市生活の暮らしやすさ要因について統計学的データ・意識調査から検討し、暮らしやすさの考え方を提案した。(pp. 272?274)
35. 衣料の所持枚数と寿命の研究 (第4報) 過渡状態のモデル解析	共	1989年	日本繊維機械学会誌 Vol. 42, No. 1	磯田、風間、平山 所持枚数が年々増加している学生についてのモデルを導き、実測値と比較した。(pp. 13?18)
36. Study on the Number of Clothes Possessed	共	1989年	日本繊維機械学会誌 Vol. 35, No. 2 (英文版)	風間、磯井、藤岡、平山 衣料の取得・寿命・廃棄を性別・世代別にモデル化した。(pp. 5?11)
37. 衣服の視覚効果の判定に関する言語表現の基準	共	1989年	繊維学会誌 Vol. 45, No. 5	磯井、小田、風間 衣服を言語表現によって評価する際に生じる、2種類のバラツキ (判定者内・間) をF検定とt検定を用いて分類した。専門家と素人 (学生) の共通の評価基準 (判定構造) を明らかにした。また専門家は、素人よりも明確な基準で、衣服要素を見て判断していることが分った。(pp. 223?228)
38. スポーツ衣料の色彩効果の研究	共	1989年	デサントスポーツ科学 Vol. 10	風間、磯井、中川 競技用とファッション化スポーツ衣料の色彩効果を求めるため、CGを用いて試料の色を変化させ、一対比較法によって評価した。検定方法は、中屋変法と分散分析を用い、同じイメージ表現でも、スポーツによってイメージする色が異なることが分かった。(pp. 302?316)
39. 消費科学のCAIシステム開発	共	1989年	武庫川女子大学紀要37集 人文・社会科学編	磯井 消費生活の実態や伸びを明らかにするために目的要因として家計調査データ、説明要因として自然環境、人口、財政、労働、社会保障を取り上げ、システムは相関係数・因子分析・数量化理論をくみ入れ、自由に選択できるようになっている独習・自習向き教育システムと研究者向きシステムを確立した。(p. 145?155)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
40. 衣服の視覚判定における要因の交互作用	共	1989年	繊維学会誌 Vol. 45, No. 1	磯井、風間 顔と衣服のような2要因で視覚効果(似合う・似合わない)を判定する場合、両者の交互作用を判定構造に含めた新しいモデルを開発する。判定者の評価値は、標準化し因子分析する。各因子ごとに要因をカテゴリーに分類し、数量化理論I類で計算する。このままでは、1つの要因の構造を分析することとどまる。そこで、もう1度数量化理論で計算し、2つめの要因の構造も分析する2回数量化システムを開発した。(pp. 35?41)
41. 感性教育の一考察 -衣服評価について-	共	1988年	武庫川女子大学紀要被服編36集	磯井、風間 衣服を的確に表現する能力を教育により改善する方法を提案する。衣服を28イメージ用語を用いて、5段階SD法で評価する。評価値は、標準化し、因子分析を行い、各因子をどの程度正確に評価できているか、正規分布の危険率を点数に換算して表わす。(pp. 103?108)
42. 溶剤の溶解性システムの研究	共	1987年	武庫川女子大学紀要被服編35集	磯井、風間 溶剤名を一つインプットすると、すでにシステムに組み込まれている溶剤ならその溶解性を、組み込まれていない溶剤ならその溶解性に近い他の溶剤がアウトプットされるコンピュータシステムを組み上げた。(pp. 115?122)
43. 衣料の所持枚数と寿命の研究(第3報)成人男子における衣料の所持枚数と寿命	共	1987年	日本繊維機械学会誌 Vol. 40, No. 7	磯井、風間、平山 前報で求めた待ち行列の理論に基づくモデルを男子にも拡張し、理論モデルと実測値の比較を①所持枚数分布、②取得分布について行い、一致・不一致の原因について考察した。また女子との違いについても考察した。(pp. 69?74)
44. Visual Effect of Clothes on Becoming	共	1987年	繊維学会誌 Vol. 43, No. 3	磯井、風間、中村 衣服の視覚判定に及ぼす顔と衣服の要因の大きさを求め、判定結果をこれらの要因によって予測する式を求めた。(pp. 161?165)
45. 衣服の着用効果の視覚判定に関する一考察	共	1986年	武庫川女子大学紀要被服編34集	磯井、風間 アリスミラーによる着用効果の判定は判定者・被験者・衣服の3要因が複雑に影響し合っている。これらの要因を分離して判定結果を評価する方法を確立する。判定能力の有無は相関係数、判定に及ぼす衣服の効果の大きさは、 X^2 検定が適していることが分った。(pp. 139?146)
46. 溶剤のドライクリーニングの適性に関する研究 -脂肪酸の溶解性に及ぼす溶剤特性の影響-	共	1985年	日本繊維製品消費科学会誌 Vol. 27, No. 8	磯井、小島、風間 ドライクリーニングに適する溶剤特性を①溶剤の凝集エネルギーの平方根である溶解度パラメーター(S値)、②分散力、双極子モーメント、水素結合の3次元モデル、③分子の基を用いて81種類の溶剤と20種類の脂肪酸について説明した。(pp. 352?359)
47. 支出の弾力性の所得階層特性に関する一考察	共	1985年	武庫川女子大学紀要被服編33集	風間、磯井 年間収入5分位階級法の所得階層の支出の所得弾力性を、品目別に求める場合、データ数が5であるので、得られた弾力性に意味があるか不明である。そこで、一次回帰の直線の傾きと推定値からの実測値の偏り(変動率)を用いて、t検定で有意性を調べた。その結果70%の品目が有意であった。(pp. 113?121)
48. テントの防水性能に関する研究	共	1983年	デサントスポーツ科学 Vol. 4	小島、磯井 テント地の耐水性に対する消費性能をモデル化した。
49. カチオン界面活性剤のCMCに及ぼす対イオン効果	共	1982年	武庫川女子大学紀要被服編30集	磯井、瀬口 対イオンの異なる無機・有機アニオンを有する界面活性剤を合成し、アニオンがCMCに与える影響を水の構造性から検討した。(pp. 61?66)
50. 各種界面活性剤によるベンゼン中への解離型染料の溶解に関する研究	共	1981年	武庫川女子大学紀要被服編29集	瀬口、磯井 水溶性モデル汚れとして、疎水・親水の両性室をもち、しかも荷電状態を変えることのできる解離型染料を用いて有機溶剤中への溶解に及ぼす水の添加効果とチャージシステムにおける荷電の効果について検討した。(pp. 91?96)
51. 本縫い縫目の断面形状およびそれらに影響する因子の研究	共	1979年	武庫川女子大学紀要被服編27集	川西、磯井 縫い糸使用量を予測するために縫目の断面形状をモデル化する前提として、縫目の断面形状およびそれらに影響を及ぼす要因について検討した。その結果、縫目間隔が小さい場合は、楕円モデルに近づき、大きくなると六角形モデルに近づくことが分った。(pp. 109?119)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
1. ファッションのデジタル表現に関して	単	2012年9月22日	日本繊維機械学会等協賛	アジアで4年に一度開催されるアパレル関連最大の見本市
2. 日本繊維製品消費科学会		2011年06月		ファッション・オン・デマンドーデジタルファッションショー
2. 学会発表				
1. 女子大生のファッションと大学イメージの比較	共	2011年06月	日本繊維製品消費科学会	山田真璃奈, 磯井佳子(丹田) 大学名から想起するイメージとその大学に通う女子学生のファッションイメージを比較した。女子大は、女子学生のファッションイメージとよく一致したが、共学は一致しなかった。共学は、女子学生のファッションイメージがよいことも分かった。
2. ファッションとキャラクターの関係性	共	2011年06月	繊維製品消費科学会	高寺眸, 磯井佳子(丹田) 海外ドラマ「SEX AND THE CITY」の4人のヒロインのキャラクター設定やドラマのシチュエーションとファッションイメージの関連性が高いことを明らかにした。
3. コミュニケーションの程度が「似合う」評価に及ぼす影響	共	1999年05月	繊維学会	磯井・風間 人は様々な集団に属し、属する集団の影響を受けていると考えられる。「似合う」という評価に影響を与える集団として、仲の良い友達に着目した。コミュニケーションの程度(仲良し)の差が「似合う」評価に影響を与えるのかを確認し、影響を受けやすい人の特徴をイメージ評価データで表現することを試みた。
4. 若く見える服装の一考察	共	1994年07月	繊維学会誌	服装によって様々なイメージの自分を演出できる。したがって服装を変えることによって、若々しく見せることも可能である。ジーンズ着用者について、若く見える服装の特徴を洋服や持ち物・アクセサリなどの要因から解説した。
5. 伝統文化に対する女性の意識 第2報 趣味の影響	共	1993年06月	繊維製品消費科学会	北崎、磯井、風間 伝統文化についての感覚や意見・経験について、女性を対象にアンケート調査を行った。意識構造を見出すために、質問をいくつかの項目に分類し、各項目ごとの質問間の関係を明らかにすることによって、質問をグループ化した。この意識構造が異なるグループごとに「伝統文化を趣味とする、しない」が影響を与えているのかを検証した。
6. 注視点測定に関する一考察	共	1993年06月	繊維製品消費科学会	村山、磯井 人が衣服をどのようなイメージでとらえているかを判断するには、SD法が多く用いられている。この方法では言葉による反応を調査するに留まり、被験者の刺激に対する反応を引き出すメカニズムまでは考察できない。本研究では、注視点測定装置を用いることにより、イメージ形成(刺激・反応)に被験者の知覚、とりわけ視覚がどのように関与しているかの解明のための試みを行った。
7. センスの良さに関する要因構造の解明 第2報交互作用	共	1993年06月	日本繊維機械学会	磯井・小田・角野・風間 第1報では、衣服要因がセンスに及ぼす影響(主効果)を調べた。本報では、各衣服要因が組み合わせられたときのセンスの評価が、単衣服要因の主効果とどのような関係にあるか(交互作用)を求めた。
8. センスの良さに関する要因構造の解明 第1報主効果	共	1993年06月	日本繊維機械学会	小田・磯井・角野・風間 ファッションセンスの「良い・悪い」を評価する衣服(アクセサリ・小物を含む)要因を明らかにする。ここでは各要因の単純集計を行い、良い・悪いの間の比率の検定から有意に良い・悪い要因を抽出し、主効果とした。
9. 年代によるライフスタイル変化の推移	共	1993年06月	日本繊維機械学会	田結荘・磯井・風間 日本人の世代別(単身世帯・子育て世帯・収入最高世帯・定年前世帯)ライフスタイルの特徴を、各世帯の収入と支出の違いから明らかにした。
10. 衣服購入時に及ぼす諸要因の効果 第2報消費者の業態イメージ	共	1993年06月	繊維製品消費科学会	井手・磯井・風間 百貨店・量販店・専門店・通信販売などの業態イメージが、属性(学生・母親・父親)によってどのように異なるのか。また購入時にどのような影響を与えているのかを解明した。
11. 伝統文化に対する女性の意識 第2報趣味の影響	共	1993年06月	繊維製品消費科学会	北崎・磯井・風間 伝統文化に対する女性の意識構造を明らかにする。意識構造は、質問をいくつかの項目に分類し、各項目内の質問の関係から分類した。また「伝統文化を趣味とする・しない」による意識の違いについても考察した。
12. 衣服購入時に及ぼす諸要因の効果 第2報 消費者の業態イメージ	共	1993年06月	繊維製品消費科学会	井手、磯井、風間 業態(百貨店・量販店・専門店・メーカー特別セール・通信販売・海外での購入など)に対する消費者のイメージが、属性(学生・母親・父親)によって

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
13. 年代によるライフスタイル変化の 推移 Transition of Lifestyle through the Ages	共	1993年06月	繊維機械学会	どのように異なるのか、またこれらのイメージが、 衣服購入時にどのような影響を与えているのかを解 明する。その結果、業態によって購入経験が多い品 目に差がみられたが、一般的に汎用性のある品目が 購入経験と結びついていた。 田結荘、磯井、風間 日本人の世代別ライフスタイルの特徴を明らかにす るために、4世代（単身・子育て・収入最高・定年 前）の世帯の所得を支出の違いを調べた。その結果 、世代によって消費品目の支出割合が異なった（子 育て世代は仕送り金、定年前世代は旅行費の割合が 増加した）。これらの消費品目から、世代によって 価値観が異なることが明らかになった。
14. 「センスの良さに関する要因」構 造の解明 第1報 主効果 Anal ysis on Composition of some Fa ctors Describing “Sensible” . Part 1 : Main Effect	共	1993年06月	繊維機械学会	小田、磯井、角野、風間 阪神間のファッションの街頭調査を行い、「センス の良い・悪い」と評価される構造のうち、主効果を 明らかにする。1144名の対象の被服を項目別に集計 し、各項目のセンスの良さ・悪さについて比率の検 定を行った。その結果セーターは良いが、ジャンパ ーは悪い。色はモノトーンで無地が良い。デイバッ グは良いが、マザーバッグは悪いなど、いくつかの 項目で有意にセンスが良くなる・悪くなるものが見 い出せた。
15. 「センスの良さに関する要因」構 造の解明 第2報 交互作用 An alysis on Composition some Fac tors Describing “Sensible” . Part 2 : Interactio Effect	共	1993年06月	繊維機械学会	磯井、小田、角野、風間 各衣服の項目別アイテムが組み合わせられたとき、 「センスの良い・悪い」は、単品の主効果とどのよ うな関係になるかを求める。これを交互作用と呼ぶ 。その結果、主効果で「センスが良い」アイテムを 組み合わせたにもかかわらず「センスが悪い」、こ の逆の場合も出現した。これらは、主効果だけでは 説明できない要因によるもの、すなわち交互作用が あるもので、個別に要因を明らかにした。
16. 注視点測定に関する一考察	共	1993年06月	繊維製品消費科学会	村山・磯井 従来衣服イメージの調査は、SD法など言葉による マーク方式に留まり、判定者の刺激に対する反応を 引き出すメカニズムまでには至っていない。そこで 本報告では、注視点測定装置を用い、イメージ形成 と視覚の関わりを解明を試みた。
17. 衣服購入時に及ぼす諸要因の効果 第一報消費実態の一考察	共	1992年10月	繊維学会	井手・磯井・風間 消費者が衣服を購入するときに意識する使用目的が 、父親・母親・学生という立場によって、衣服の品 目によってどのように異なるのかを明らかにした。 解析には、バレット図を応用したばらつきの信頼区 間から品目を分類し、これらの品目から生活行動や 価値観について考察を加えた。
18. 伝統文化に対する態度の分類	共	1992年10月	繊維学会	北崎・磯井・風間 伝統文化に対する意識の違いを、伝統文化を趣味と するか・しないか、学生か・学生以上の年齢かの2 アイテム2カテゴリーで集計し、各調査項目間の相 互関係から、伝統文化に対する態度（考え方・取り 組み方）を分類した。
19. 専門家による衣服イメージの判定 基準	共	1992年06月	繊維学会	磯井・小田・風間 複数の判定者が、衣服のイメージや似合うを評価し た場合の一致の判定基準を定義別に提案した。その 結果、評価のばらつきを正規分布すると考え、標準 偏差値の大きさから判定する方法が適切であることを 見いだした。
20. 伝統文化に対する女性の意識	共	1992年06月	日本繊維製品消費科学 会	北崎・磯井・風間 日本の伝統文化の中でも、将来残るものと減ぶもの が考えられる。この違いを明らかにすれば、文化の 保存・伝統文化の教育・伝統文化に対する商品のマ ーケティングに役立つと考えられる。そこで伝統文 化に関与している女性とそうでない女性との伝統文 化に対する認識の違いを明らかにした。
21. 衣服イメージに対する専門家の判 定特性	共	1992年06月	日本繊維機械学会	小田・磯井・風間 衣服評価において、専門家は素人より評価が一致す るが、専門家と言えどもすべてが一致するわけでは ない。そこでファッション衣料に関する仕事に従事 する専門家が、衣服を評価する場合、一致する用語 と試料・不一致の用語と試料に分類した。また一致 ・不一致の用語と試料の特徴を明らかにした。
22. ゆとりのある生活と余暇活動の一 考察	共	1992年06月	日本繊維機械学会	田結荘・磯井・風間 ゆとりある生活が提唱されているが、その定義は人 によって異なる。本報告では、ゆとりある生活の尺 度を求めるために、生活の質的調査を行った結果、 余暇活動を取り上げた。最近7年間の余暇活動の推 移から性別・年齢の差による変化をとらえた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
23. 装いと似合う・似合わないの評価	単	1992年04月	日本家政学会・日本社会心理学会	(磯井) □衣服の評価や似合う評価など、視覚評価の解析方法について、いくつかの具体例をあげて説明した。特に2回数量化法・欠落したデータの相関の求め方など、工夫した統計的手法について述べた。
24. 衣服の評価基準に及ぼすファッションの影響	共	1991年10月	繊維学会	磯井・小田・風間 衣服のイメージ評価は、2時点(2年間)の時間変化によってどのような影響を受けるのかを明らかにした。この影響を明らかにすることによって、ファッション動向を知ることができ、これによって予測につなげることができる。
25. 衣服の視覚効果に及ぼす身体太さの研究	共	1991年06月	繊維製品消費科学会	佐藤・磯井 身体の太さ・衣服と判定者の3要因から、「似合う」に及ぼす効果を分散分析によって求めた。3要因ともに主効果がみられた。
26. 品目別支出金額からみた都市の生活行動	共	1991年06月	日本繊維機械学会	磯井・風間 家計調査の都市別消費支出のデータから、各都市の生活パターン(ライフスタイル)の特徴を明らかにする。支出データは、①価格の支出弾力性と支出トレンドが大きい、②都市間のばらつきの大きいものを選び、③金額の小さいものは除いた。
27. 視覚判定システムの信頼性に関する検討	共	1991年06月	繊維学会	磯井・風間 衣服の視覚効果を明らかにするため、多くの解析方法を試みてきた。本報告では、これらの解析方法の優劣を、解析の結果得られた推定値と実測値の一致する度合いで比較し、優劣が生じる原因についても考察した。
28. 着用者の要因が衣服の「似合う」に及ぼす影響	共	1991年05月	日本家政学会	磯井・長沢・風間 似合う判定において、着用者の顔・体型・髪型がどのように影響するかを、衣服1種類・顔3種類・体型4種類・髪型5種類の組み合わせについて分散分析によって検討した。
29. 衣服設計と視覚要因	共	1990年10月	繊維連合	磯井・風間 企画された衣服の販売対象を特定したり、仕入れた衣服に適する顧客を求めめるためのコンピュータシステムの開発を試みた。これは衣服の特徴が与えられれば、それが適する着用者の特徴を見いだすことにより可能となった。
30. 衣服の視覚効果の判定能力の教育システム	共	1990年07月	繊維学会	磯井・小田・風間 衣服の視覚判定の基準の内、「センスがよい」という評価はどのような要因によるのかを明らかにする。この要因を明らかにすることで、各人の衣服センスの良さを向上させる教育システムを作成することができる。ここでは、システムのモデル例を説明した。
31. 衣服の視覚効果に及ぼす身体太さの影響第2報 ー身体部位の影響ー	共	1990年06月	日本繊維製品消費科学会	佐藤・磯井・風間 前報では、身体太さが衣服の「似合う」評価に影響を及ぼすことを知った。本報告では、身体太さを肩幅・腰幅・脚幅の弁別領域を求め、各部位の寸法が全体的な太さ感に与える影響と「似合う」に与える影響を比較検討した。
32. 所得階層による購入価格の差と消費動向	共	1990年06月	日本繊維機械学会	磯井・松本・江藤・風間 所得が高い人ほど購入する商品の単価が上昇する商品グループは、単価の小さい商品グループに比べて、どのような特徴を持つのかを見いだす。このために所得の5分位階級の購入単価の変化率が、他の尺度とどのような関係にあるのかを見た。
33. 消費の地域特性	単	1990年06月	日本繊維製品消費科学会	(磯井) □居住地域によって消費行動に差があれば、居住地域の諸特性が消費行動に与える影響が明らかになる。本報告では、第一段階として消費財の品目別支出金額の大きさを消費行動を左右する要因としてとりあげ、都市を分類した。
34. ライフスタイルグループへの所属判定方法	共	1990年05月	日本家政学会	磯井・徳山・風間 従来のライフスタイル分類は、調査対象者をグループに分けるだけで、新たな対象者を各ライフスタイルに位置づけることはなされていなかった。本報告では、分類されたライフスタイルグループに、新しい対象者を位置づける方法を提案した。
35. 衣服の視覚効果に及ぼす身体太さの研究	共	1989年10月	繊維学会	佐藤・磯井・風間 人は「似合う・似合わない」を評価する場合、身体の太さの影響を受けるのかを明らかにした。また、身体の部位(肩・腰・脚)の太さのうち、どの部位の太さ感が強いかを明確にした。
36. 地域による生活特性を用いた被服の需要の解析	単	1989年06月	日本繊維製品消費科学会	(磯井) □被服の消費量を説明する要因として、県ごとに特徴がある次の項目を取り上げた。自然環境・人口・財政労働・社会保障・生活時間。これらの

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
37. 衣料の商品特性に関する一考察	共	1989年06月	日本繊維機械学会	要因で被服消費量を説明できた。さらに経時変化から、各都市・全国の被服消費を予測することができるシステムを作成した。 磯井・風間・大橋 マーケティング戦略に当たり、商品の特性を把握し、その特性に応じた戦略を立てることが重要である。従来商品特性は、最寄り品・買い回り品・専門品に分類されていたが、本報告では購入頻度・単価・購入場所を要因として、多変量解析の手法により新しい分類法を試みた。
38. 衣服の視覚判定効果に関する言語表現の基準 —着用者について—	共	1989年06月	繊維学会	磯井・小田・風間 「似合う」と判定された着用者と衣服の要因が、似合うに与える影響の大きさを求め、視覚判定の尺度作りの新しい方法を確立する。似合うに影響する要因は、似合う比率の有意差検定で求めた。似合うに影響する要因は、衣服では形状を表す用語・着用者ではイメージを表す用語が多いことが分かった。
39. 被験者の諸要因が衣服の視覚効果に与える影響	共	1989年06月	繊維学会	中川・磯井・風間 衣服を着用している着用者の要因として、顔の表情を取り上げた。着用者・髪型・表情のうち、似合う評価には着用者の要因が大きく影響することを知った。
40. 女子学生とその母親におけるライフスタイルの分類方法	共	1989年06月	日本繊維製品消費科学会	徳山・磯井・風間 日常生活の中で、女子大生とその母親の間の生活意識パターンが異なっている。そこで両者のライフスタイルの違いから、被服行動及び購買行動の関連を分析する方法について検討した。
41. 被服の価格差による消費動向の推定	共	1989年05月	日本家政学会	磯井・風間 所得によって購入する価格差が大きい商品は、品種の多様性に富み、さらに高級化が進み需要が伸びる可能性を持つと考えられる。そこで商品のある時点の価格差を調べることによって、その商品の将来における成長性を予測することができると考え、予測のモデルを求めた。
42. 衣服の色彩効果の研究	共	1988年10月	繊維学会	中川・磯井・風間 衣服の色彩が、人に与える印象の違い・大きさ（強さ）について検討した。本報告では、イメージが異なる2つのスポーツのウェア（アメフト・スキー）を対象に考察した。
43. 被服の視覚判定における判定能力と判定モデル	共	1988年06月	繊維学会	磯井・小田・風間 「似合う」程度を着用者と衣服の要因の和で表せるモデルを、前報で提唱した。ところが実際の判定では似合う要因が、ある着用者には似合わないケースがみられる。前報の加算モデルでは、このようなケースを表現できないので、本報告では改良型のモデルを作成した。
44. 溶剤の繊維に対する吸脱着の研究	共	1988年06月	日本繊維製品消費科学会	宮崎・磯井・小島 溶剤自身の蒸発速度が、繊維に接することによってどのように変化するかを、繊維の条件（暑さ・形状・素材）と溶剤の浸透状態等の影響から検討した。実験は、開放条件下と拘束条件下の2種類で行った。
45. 衣料消費の地域性による解析	共	1988年06月	日本繊維製品消費科学会	磯井・松田・風間・大橋 被服の消費量がどのような要因によって定まるかを明らかにするために、47都道府県庁所在都市の総支出金額・地域・気候・年齢などの他にその都市のライフスタイルを表す要因として被服以外の消費パターンを取り上げて検討した。
46. 衣服の視覚効果に及ぼす色彩の影響	共	1988年05月	日本家政学会	磯井・風間 コンピュータの画面上で、衣服の色を48種類に変化させた場合の印象の相違を調査した。次のことが明らかになった。①デザインとマッチする色彩としない色彩の間に有意な差があった。②似合う程度に対して、モデル間・色彩間に有意な差がみられた。
47. 水溶性と油溶性に影響する要因に関する一考察 —構造的要因について—	共	1987年06月	日本繊維製品消費科学会	磯井・小島・風間 分子構造やSP値が似ている溶剤の水溶・油溶の溶解性を、ほぼ分類できることを明らかにした。しかしこの中には、溶解性の予測を大きくはずれるものもある。そこでSP値では表現しきれない溶剤の溶解性を分子の大きさ・末端基の種類・結合の形式などの補正值で表す方法を求めた。
48. 水溶性と油溶性に影響する要因に関する一考察 —SP値について—	共	1987年06月	日本繊維製品消費科学会	小島・磯井・風間 ドライクリーニング溶剤は、油性溶剤であるため油脂汚れは除去しやすいが、被服汚れには水溶性汚れも付着している。そこでドライといえども水溶性汚れを除去する機能を要求される。そこで本報告で

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
49. 被服の視覚判定機構の解明	共	1987年06月	繊維学会	は実際の水溶性汚れを想定して、有機溶剤の水溶性汚れの溶解性について検討した。 磯井・風間 「似合う」「似合わない」は、着用者と衣服のどのような関係で評価されるのかを、明らかにする方法について検討した。数量化理論を2回用いることによって、着用者と衣服の2要因を同一次元で議論できる方法を考案し、2回数値法と呼ぶこととした。
50. 衣服の所持枚数に及ぼす購入・廃棄の影響	共	1987年06月	日本繊維機械学会	磯井・風間・平山 衣料消費は、消費者のタンス在庫が満杯なので、新規需要が頭打ちと言われる。事実、1953年をピークに減少している。もしタンス在庫が原因なら、衣料消費はさらに減少を続けることになる。そこで本報告では、タンス在庫(所持枚数)が衣料消費を低下させるという仮説を検証した。
51. 衣料の所持枚数と寿命の研究第3報—成人男子について	共	1986年06月	日本繊維機械学会	風間・磯井 筆者らは衣料の所持枚数分布と寿命分布のモデルを提案し、成人女子の実測値とモデルがよく一致することを報告している。本報告では、成人男子の場合について、モデルとの一致性を調べ、成人女子と比較し相違点について検討する。
52. ドライクリーニング溶剤に関する研究第2報—油性汚れの溶解性—	共	1986年06月	日本繊維製品消費科学会	磯井・小島・風間 油脂の溶剤溶解性を各種脂肪酸を取り上げ検討してきた。本報告では、クリーニング汚れとなるような身の回りに存在する油性物質を溶質としたときの溶解性を体系的に説明した。
53. 溶剤の油脂溶解性に関する研究第3報—界面活性剤を溶解させた溶剤の場合—	共	1986年06月	日本繊維製品消費科学会	小島・磯井・風間 油脂(脂肪酸)の溶剤溶解性をSP値で説明できることを、前報で明かにした。実際のチャージシステムでは界面活性剤を添加しているの、本報告では、界面活性剤の添加時における油脂の溶剤溶解性について検討した。
54. 被服の視覚効果の研究第1報—判定方法の研究—	共	1986年05月	繊維学会	磯井・中村・風間 衣服の動向がマスマッションから個性化ファッションへ移行すると、「似合う」「似合わない」の差が顕著になる。この差は、着用者と衣服の組み合わせによって生ずる。そこで着用者と衣服の要因が「似合う」という結果に与える効果を明らかにした。
55. 溶剤の油脂溶解性に関する研究第1報—研究方法と天然油脂の溶解性—	共	1985年05月	日本繊維製品消費科学会	小島・磯井・風間 溶解度パラメーター(SP値)の研究は、合成樹脂やセルローズを対象溶質として研究されてきた。被服類のドライクリーニングや金属洗浄の分野で対象となる油脂を溶質とした研究はなされていない。そこでSP値に関する他分野の成果を用いて、油脂の溶剤への溶解性を明らかにする。
56. 溶剤の油脂溶解性に関する研究第2報—脂肪酸の溶解性—	共	1985年05月	日本繊維製品消費科学会	磯井・小島・風間 油脂のうち脂肪酸は、炭素数の異なるもの・2重結合の有無など、溶質の要因を変化させて検討する場合に適している。そこで脂肪酸を用いて、溶解性に影響を与える溶剤の要因を明らかにすると共に、溶質分子の構造式との関係についても検討する。
57. テントの消費性能に関する研究	共	1983年06月	日本繊維製品消費科学会	小島・磯井 アウトドアでの娯楽が盛んになり始め、多くの種類の簡易型テントが販売されている。これらのテントの実用性能を水・防水性、テント内の温湿度変化から評価した。
58. 次亜塩素酸漂白に及ぼすミセル効果—漂白の場合—	共	1981年09月	日本家政学会	磯井・瀬口 漂白過程は漂白剤の化学種・pH・温度などの様々な因子が作用する。その1つとして、界面活性剤の添加が漂白速度に著しい影響を持つことを指摘した。この漂白機構を明らかにするために界面活性剤の類似物として第4級アンモニウム塩の添加効果並びに有機溶剤中での漂白について検討した。
59. 解離型染料(モデル汚れ)の有機溶剤中への溶解に及ぼす界面活性剤の効果	共	1981年06月	日本繊維製品消費科学会	磯井・瀬口 ドライクリーニングでは、パークレンなどの石油系溶剤に界面活性剤と水をチャージさせる方法で水溶性汚れの除去が行われている。チャージ法での水溶性汚れの除去機構については、不明な点が多い。そこで水溶性のモデル汚れとして解離型染料を用い、有機溶剤中への溶解現象を水及び界面活性剤の効果から明らかにした。
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 家政学辞典（共同）		2004年		
6. 研究費の取得状況				
1. デジタルファッション株式会社 新規	共	2008年		プロシューマ・ファッションの開発
2. シャルレきごこち科学研究所 新規	共	2005年		フィッティング

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本繊維製品消費科学会 繊維学会 日本繊維機械学会 ファッション環境学会 家政学会